

5-4 その他

ツタ類(ヘデラ)の維持管理

これまで、植樹帯・分離帯などの狭いスペースや日陰、壁面部分の緑化を図るために、また、高木や低木の根締めや修景方法として積極的にツタ類（ヘデラ）の植栽を行ってきた。ツタ類は、排気ガスや乾燥に強く、繁殖力も旺盛で、その強い繁殖力により、低木と組み合わせて植栽した場所では、低木の植え込みの中に入り込み、根を下ろしていったことから、低木の成長に悪影響を及ぼし、現在では低木全体を覆ってしまっている状態となっているものもある。また、高木の根締めで植栽された場所においても、高木の幹に絡みついて登はんし、景観上好ましくない状態となっている。

一度、低木の植え込みの中に入り込み根を下ろすと、通常の保守管理ではツタ類の繁茂を抑えることができず、低木によっては枯損してしまい、当初の景観を損ねているものもある。

今後、適正な維持管理を行っていくためには、ツタ類の具体的な適正な維持管理方針を考えていく必要がある。

(1) 植栽した低木が完全に枯損している場合

→枯損した低木を覆っているツタ類を除去せずに、そのままの形で伸長したツタ類の徒長枝の剪定を行い、現在の状態を維持していく。



(2) 植栽した低木が再生可能と判断した場合

→ツタ類を思い切って一度撤去し、低木を再生させる。
ツタ類の根が残っていると、再生してくるので、毎年の保守管理業務で取り除く。



(3) ツタ類のみの場合

→剪定を行うことで適切な大きさ・面積を維持する。
(例：境界ブロックからはみ出したものは、年1回程度徒長枝を剪定する) 高木に登はんするおそれのある場所では、根元の周囲1m位のツタ類を除去し、毎年剪定して登はんを防ぐ。



(4) ツタ類(ヘデラ・ヘリックス)と低木が共存している事例

→ツタ類が低木を覆わないように適切な維持管理を続けていく必要がある。

